

『觸目警心』五卷―湖北の物語宣講書

阿部泰記

はじめに

本書は清光緒十九年（一八九三年）に刊行された宣講書である。¹ 封面には「光緒十九年鐫／觸目警心／沙市善成堂藏梓」と記す。善成堂は四川の傅氏が咸豊年間（一八五二～一八六一）に創業した書肆で、重慶に本店を置き、四川成都、江西南昌、湖北沙市・漢口、山東東昌・濟南、北京など各地に支店があった。² 沙市は湖北省荊州に隣接する町で、唐代には重要な物資の集散する港湾となり、清代には沙市鎮と称して江陵県に属し、商業都市として発展した。³ なお巴蜀善成堂蔵板の宣講書に『宣講金針』四巻があり、⁴ 山東聊城の善成堂が出版した宣講書に『宣講宝銘』六巻（？）がある。⁵ 早稲田大学蔵本の第一冊表紙には『宣講小説觸目警心』と筆写しており、筆者や時期は定かでないが、宣講書が小説として読まれたことも示唆する。半葉九行、行二十三字。各巻五案を収録し、冒頭に目次を掲載する。各案証は第一葉第一行から始まっている。また「滴血成珠」などの案証には末葉に捐刻者の姓名を刻する。

卷一 1. 「五桂聯芳」十四号⁶（第一冊第一～十五葉）（宣三場） 採取「宣講福報」⁷

2. 「滴血成珠」（第一～四十葉）（宣十七場） 採取「宣講珠璣」⁸ 張錫笏捐刻

3. 「白雞公」（第一～七葉）（宣二場） 採取「增訂輯要」⁹。

4. 「天賜孝粟」（第一～九葉）（宣六場） 採取「福緣善果」¹⁰

5. 「戒烟全節」（第一～十葉）（宣五場） 採取「浪裏生舟」¹¹ 劉吉詮弟兄捐刻

卷二 6. 「白玉圈」（第二冊第一～二十三葉）（宣十三場） 採取「万善婦一」¹²

7. 「便人自便」（第一～十五葉）（宣八場） 採取「宣講大全」¹³

8. 「集冤亭」（第一～十五葉）（宣九場） 採取「万善婦一」¹⁴ 羅沢源・肖興祿・鍾礼斌捐刻

9. 「双還魂」（第一～十六葉）（宣四場） 採取「万善婦一」¹⁵

10. 「忘恩負義」（第一～十一葉）（宣四場） 採取「福緣善果」¹⁶

卷三 11. 「作善团円」（第三冊第一～二十三葉）（宣七場） 採取「宣講珠璣」¹⁷

12. 「貞烈女樓」（第一～十四葉）（宣六場） 採取「明善復初」¹⁸ 王恩

- 13 「修路獲金」(第一～十葉) (宣四場) 採取『明善復初』¹⁹
- 14 「双槐樹」(第一～二十一葉) (宣十一場) 採取『保命金丹』²⁰
- 15 「鴛鴦巧瓶」(第一～十三葉) (宣四場) 採取『福緣善果』
- 卷四 16 「成人美」(第四冊第一～二十五葉) (宣六場) 採取『救劫金丹』²¹
- 17 「孝遇奇緣」(第一～十二葉) (宣四場) 採取『広化篇』²²
- 18 「珍珠塔」(第一～二十二葉) (宣八場) 採取『浪裏生舟』²³
- 19 「鳳凰山」(第一～十一葉) (宣七場) 採取『避溺艇』²⁴
- 20 「虐母化慈」(第一～十三葉) (宣六場) 採取『福緣善果』
- 卷五 21 「飛龍山」(第五冊第一～十一葉) (宣四場) 採取『宣講大全』²⁵
- 22 「太乙指地」(第一～二十二葉) (宣七場) 採取『増訂輯要』²⁶
- 23 「愛弟存孤」(第一～十八葉) (宣六場) 採取『福緣善果』
- 24 「嫌妻受窮」(第一～十一葉) (宣六場) 採取『広化篇』²⁷
- 25 「双屈縁」(第一～十九葉) (宣九場) 採取『万善婦一』²⁸

本書は以上のように、各案証を単行できる体裁を取っており、十五葉以上の長編が半数を占め、試練を克服して幸福を得るという内容の物語が多く、「五桂聯芳」「滴血成珠」「珍珠塔」などは独立した演劇作品としても有名である。案証には採取元の宣講書名を注記しており、本書が別の宣講書から案証を選んで再編集したことがわかる。また案証の内容を検討すると、数量的に善悪案七篇、孝不孝案五篇、兄弟案一篇、夫婦案十一篇、冤罪案一篇と、圧倒的に夫婦

案が多数を占めており、本来の聖諭宣講において多数を占めていた孝悌案を上回っているところに特徴が認められ、男女の愛情説話が好まれるようになったことを表している。

本論では物語性のある案証が聴衆に求められるようになった様子をこの宣講書によって考察してみたい。

二 善悪案七篇

1. 「五桂聯芳」(十五葉) — 寶禹鈞の善行

寶禹鈞が善行を重ねて五人の優秀な子を授かる。寶禹鈞は五代晋、幽州の人で、宋の王心麟(一二三三—一二九六)編『三字経』には、「寶燕山、有義方、教五子、名俱揚」と歌われる教育者とし、²⁹ 明末の善書『文昌帝君陰騭文』にも、「寶氏濟人、高折五子之桂」と簡単にしか記さないが、³⁰ 清の周夢顔(一六五六—一七三九)『文昌帝君陰騭文広義節録』には、亡祖父が夢に現れて善行を勧めたため、幼女を形に家の金を盗んだ家僕を許したうえ、その幼女を養育して嫁入りさせたこと、また一族の冠婚葬祭を援助したり、書院を建てて学士を育てたりしたことによって、聡明な五子を授かったことなど、具体的な善行を記載するに至った。³¹

五代寶禹鈞、燕山人、年三十外無子。夢祖父告曰、「汝不但無子、且不寿、宜早修徳以回天。」禹鈞由是力行善事。有家人盜錢二百千、自書券系幼女

背、曰、「永売此女、以償所負」、遂遁。公憐之、焚券養女、及笄、挾配嫁之。同宗外戚、有喪不能奉、出錢葬之、有女不能嫁、出錢嫁之。公量每歲所入、除伏臘供給外、悉以濟人。家唯儉素、無金玉之飾、無衣帛之妾。於宅南建書院、聚書数千卷、延師課四方孤寒之士、厚其廩餼。由公顯者甚衆。不久、連生五子、皆聰明俊偉。復夢祖父告曰、「汝數年來、功德浩大、名掛天曹、延壽三紀、五子俱顯榮。汝当益加勉勵、無惰初心也。」

寶禹鈞の善行説話はこのように物語化の要素をすでに有していたが、後に『宣講拾遺』（一八七二年）巻四「燕山五桂」（二六六六字）では長編化し、さらに本書の「五桂聯芳」（五七二六字）に至ると、そのほぼ二倍の長さに改編されて、以下のように、満天飛という悪辣な船頭が河の真ん中で船を止めて船賃を要求して苦しめるのを見て懲らしめるため、禹鈞が橋を造って往來の人を助けたり（4）、妻が身を売って死んだ姑の葬儀の金を作るうとする夫婦を援助したり（5）、鄭明が罪に連座したため子女を売って作った金を落とし、禹鈞がそれを拾って救うと、鄭明は報恩のために娘を嫁がせるが、禹鈞が拒絶したり（7）、禹鈞が再婚の女性を紹介されるが、女性の独身を通す意思が強いため、再婚をあきらめることを述べたり（8）等の描写を加え、具体的に善行を積むことを述べることよって長編の物語となっている。ちなみに両書の叙述を比較すると以下のごとくである。

1. 『觸目警心』巻一「五桂聯芳」／『宣講拾遺』巻四「燕山五桂」
昔、「文昌帝君陰騭文」曰、「竇氏濟人」……余逐一講説。／每嘆世之愚夫、多有刻薄慳吝。……古有一案、而能改過遷善。
2. 祖父罵曰、「爾這奴才、造罪不小、刻薄奸貪。……」／見父帶怒色而責之曰、「宣」「呼一声、禹鈞兒、甚是愚蠢。……」
3. 燕山亦入廟去聽、正説「堪嘆人生莫來由。……」此是呂祖勸人淡財歌。……燕山聽至此、大不歡悅。以為譏誚之語。／自書黃疏、表悔罪之心於上帝、「宣」「寶禹鈞、跪炉前、自陳已過。……」
4. 有一渡夫打渡、混名滿天飛、……將過河衆人推至当江之中停舟要錢。……不如將此河修一座大橋以便往來。／造河船以濟人渡、修橋路以便人行。
5. 偶聽茅房有悲声、……（歌）「哭声夫君淚滂沱。……」其夫又哭云、「（歌）「賢妻不必抱怨我。……」……嫁妻預備母親終天之事。／×
6. 檢一手帕包裹……是白銀一錠金釵一隻。……只見一個中年婦人慌慌忙忙、恍惚無主而來。……因丈夫鄭明、……牽連受害、……只得壳子壳女、勉強辨這點銀子。……燕山從此立功、共有四千功勞。／一日閑遊於延慶寺、檢銀一封、……忽一人垂淚而至曰、「父犯大辟、壳女贖父、……誤將銀失去。」……方便數年、共助葬者二十七家、助嫁娶者三十六人。……一夕又夢見父欣然相告曰、「宣」「禹鈞兒、真乃是、善根不淺。……」
7. 吩咐鄭女安宿、独自自坐以待旦、不妄動一毫邪念。此夜立功一万。何也。万惡淫為首、首惡既除、而万善俱備。／×

8. 後又有人作合、……那知此婦居婦心堅、……〔歌〕「引着嬌兒哭一更。……」……燕山聰明、……不娶而婦。……未上一年、夫人身懷有孕。

／×

7. 「便人自便」(十五葉) — 正直者の出世

正直者が西方に因果を尋ねる途中で山賊の娘に救われ、老人から娘が唾である理由などを、また老龍から飛べない理由を釈迦に尋ねてほしいと頼まれて解決し、老龍の宝珠を朝廷に献上して「進宝状元」を授かる。

宋仁宗時、江南寧国府常安県³²、王臣の子邦賢。善行を尽くしたにも拘わらず貧窮して人に嘲笑されたため、西天にその因果を尋ねに行き、途中で太行山の崑崙大王朱貴に捕まるが、その娘蘭英が観音菩薩の託宣によって銀と馬を贈って下山させる。蘭英は山を追われて集賢村の張奇の養女となる。邦賢は流沙河で盗賊の毒煙を吸って荷物を奪われるが、趙普翁に救われ、西天で娘秀英の唾のわけなどを聞くよう依頼される。また西藏の山下で老龍に千年飛べぬわけを聞くよう依頼され、西天で三世因果経を聴き、龍の頭を夜明珠が抑えていること、娘が婿を迎えれば唾は治癒することなどを教えられて帰還し、趙家の婿となり、朝廷に老龍の宝珠を献上して進宝状元を授かり、陝西巡撫に赴任して蘭英を招く。張奇の娘玉容は周翰林に嫁がせる。朱貴は蘭英の嘆願により囚人を身代りに処刑する。

この案証は『宣講集要』卷十一「方便美報」をやや短く改編したものであり、両者を比較すると、「方便美報」には、山賊の娘が西方に行く若者に父親の改心の時期を釈迦に尋ねさせる場面(1)、若者が老人に三代続く六件の善行を説明し、老人が善行を勧める場面(2)、釈迦が山賊とその娘が救われると告げる場面(3)がある。「便人自便」には、蘭英が父親の助命を求めるとある。

『觸目警心』卷一「便人自便」／『宣講集要』卷十一「方便美報」

1. ×／「想此事由命不由人。……若無家室、將奴終身負託於他、替我西

天問仏、看我父親幾時回心。」小姐便問、「相公有多大年紀。……」〔宣〕

「邦賢聽得小姐問、腹内思量口問心。……若得放我西天去、甚如宝塔

点明燈。」

2. 趙翁纔知他三代為善、無有好報。……／「把你家三代所行善事、説与

我聽。」王公子道、「論我家所行善事、總是広行方便、……第六件、

遇有冤枉、与人排難解紛。……」趙翁曰、「夫天地無私、神明鑑察。

……」〔宣〕「心不明来点甚燈、意不公平誦甚經。……」

3. ×／那太行山放活生命一百、父女自然有報。

4. 其妻泣啼上前求情曰、「詞」「尊声老爺慢施刑。……」／蘭英哭至帳中。

なお、山賊の娘が旅人を助け、のちに旅人と結婚するというプロットは、「包公案」『張元貴』にも見られる民間説話である。³³

富家の公子張文貴が応試のため上京する途中、太行山で盜賊靜山大王趙太保に捕らえられ、心肝を食われそうになるが、大王の娘青蓮公主に見初められて夫婦となる。別れに臨んで青蓮は、青糸碧玉帯・逍遙無尽瓶・温涼蓋の三宝を贈り、科擧に落第したら宝物を献上して官職を得よと諭す。仁宗は張文貴を元帥に封じ、青蓮公主との結婚を仲介する。

11. 「作善団円」(二十三葉) —善人の団円

善人が失踪した子に買われて再会し、子の善行によって別れた妻とも再会する。息子が失踪したため善行を重ね、親を買う者を探して息子に再会し、親子となる。息子は兵乱で麻袋に入れて売られる婦女を買い、母と妻に再会する。李漁『十二楼』「生我楼」を善書風に改編した物語である。

乾隆二十年、貴州省大定府平遠県³⁴、向進先。吝嗇。五十歳で一子鳳生を儲けるが、鳳生が龍船を見物して失踪し、夢に祖先から善行を積むよう勧められて悔悟する。鳳生は誘拐されて遵義府の劉裁縫の子金山と改名し、秋錫匠の娘月英を娶る。進先は母の埋葬の借金を返済できずに身を売る。鳳閣の妻瑞娥を救った後、神の啓示に従って親を買う者を捜して金山に遭う。進先は強盗に襲われるが、従者の向忠に救われ、強盗を改心させる。進先は帰郷して、兵乱で誘拐された妻が麻袋で売られると聞く。金山は定番州で袋を買うと老婆であったが、教えられた袋を買うと月英であり、老婆は進先の妻であった。

ちなみに「生我楼」では、宋末、湖広勛陽府竹山県の富者尹厚、あだ名小楼が一子楼生の失踪の後、子が生まれず、後継ぎを慎重に選ぶため、銀十両で身を売ると公言して松江府華亭県に至り、姚継の養父となる。姚継は元兵の襲撃を避けて湖広に結婚相手を訪ね、仙桃鎮に至って布袋で売られる老女を買って養母とすると、老女から美女の入った布袋を当てる方法を教えられて結婚相手の曹女を探し出す。後に老女は尹小楼の妻だとわかる、という物語である。「作善団円」の向進先が吝嗇であったり、孝女を救ったり、強盗を改心させたりする叙述は善書特有のものであり、「生我楼」には見られない。

13. 「修路獲金」(十葉) —善女の応報

善女が路を造って黄金を授かり、善行を妨害した富家が落ちぶれる。

国朝光緒壬午八年(一八八二年)、安岳県(四川)、劉永清。母王氏は慈善に努める。奢侈を好む嫁呉氏に「竈君六戒」を教えて悔悟させる。また山道が危険なので石工の方大概に協力を要請する。富者畢曰利は協力を拒絶する。石工たちは工事を始め、光沢ある「石胆」(藥劑)を発見して劉家に届ける。盜賊の鄒四喜が盗もうとするが、黒漢(竈神)に打たれ、王氏は四喜を戒める。この石胆は黄金に変わる。畢家は落ちぶれる。

21. 「飛龍山」(十一葉) — 天童の転生

善人の家に天界の童子が転生して孝行し、苦行を終えて昇天するという神話。

山東叙州府³⁵、焦老。傭人。無言の子閻龍が生まれる。父が死ぬと、閻龍は母楊氏に雲陽板を打って歌を聴かせて喜ばせる。楊氏が逝去すると乞食をして生活し、悪人呉獠の大蛇を解き放って呉獠に殴打されるが、陳仲義が諫めて陳家の手伝いをさせる。呉獠は神が食事を妨害するので陳家を離れる。閻龍は善行に努め、仲義から結婚を勧められるが辞退する。太白金星は閻龍が真武殿の捧剣童子であり、仙桃を盗んだ罪を償うため下界で苦行を終えることを知り、二十四の耐煩を負わせて山に登らせ、三つの耐煩を残して去る。魏有真是これを聴いて鉄拐李に扮して閻龍をだまし、魏家で三年働いて宿債を返却しよう告げる。三年後に有真是呉獠が大蛇に遭って死んだ裏山から閻龍を落とすが、大蛇が空中で手を伸ばして北方に連れ去る。有真夫婦は閻龍をまねて山から落ちて死ぬ。人々は山に飛龍山と名づける。

22. 「太乙指地」(二十二葉) — 善人と神童

善人の夫婦が神童を授かり、神童は知恵を用いて科挙に及第するという神話。

泰安府(山東)、張豆腐。妻呉氏とともに母を看病して、冬の氷の中で汚

れた衣服を洗い、雪道に難儀する乞食の老人を家に泊めると、老人が再び訪れて員外黄常が火事見舞いに行つて母の墓地として葛藤【澗】を求め、鉄帽子を被つた人が現れた時に埋葬すれば子孫が出世すると告げ、夢に太乙だと名のる。豆腐がその言に従うと、一子神保が生まれる。員外は神保が大人の裁判をまねて劉三麻子の不孝と湯痞子・楊癩子の悪行を裁くのを見て妻を説得し、趙老爺を仲人として娘金花の婿に選び、豆腐夫婦ともに家に住まわせる。員外の子正中は軽薄で、雑技者から移眉法を学び、教師の眉を顔に移す。員外は二子に「尊師長歌」を聴かせ、書かせて壁に貼らせる。神保は夢に紅袍の長官が「張尋張」と啓示したので、張人杰から監生の身分を借りて受験し、及第して礼部尚書に陞進する。

なお『万選青錢』巻一にも「太乙指地」を収録するが、物語はこの四分の一に縮小されている。宣講人による講説は双方に特色があるが、本書は案証の発生時期を記載しており、『万選青錢』は本書の案証を改編したものと思われる。参考のため、以下に両者の叙述を比較する。

『觸目警心』巻五「太乙指地」(八千七百九十一字)³⁶／『万選青錢』巻

一「太乙指地」(二千五百八十八字)³⁷

1. 事親竭力出性真、……。 (九十一字)／事親竭力出性真、……。〔講説〕
在位、要曉得天老爺与人無親戚、只愛人修徳。(百五十六字)

2. 母親劉氏……昏昧時、屎尿窩於床上。……床褥帳被、勤為洗換。／×

3. 那年冬月十八日、正是大雪飄飄、烏雀難飛。……／即当雨雪霏霏、行道遲遲之際。
4. 〔講説〕各位、像這樣天寒地凍、冷風透骨、人多与妻子困炉、連門都怕出的還有。……／×
5. ×／〔講説〕在位、張豆腐心上會想、你們也學他不忘親恩、便是孝子。
6. 〔講説〕各位、是在於今婦女、丈夫留一乞丐到家、還怕會吵將起來。／×
7. 是夜、送老人灶房安寢、轉至房中。吳氏道、我們不如合衣而臥。……／×
8. 張豆腐買些酒肉婦家、問及老人、吳氏便言留不住。張豆腐蹬足。……／張豆腐婦家、怪其妻。
9. 老人曰、他這個月十五要遭火燒嗎。……天明就去勸他莫憂氣、……送百樣你都莫要。／×
11. 〔講説〕各位、人有善念、天必佑之。你們若能尽孝、也是要生好兒子的。／×
12. ×／〔講説〕在位、這是張豆腐大有孝道、兒子才有這奇緣。
13. 接個廩生李逢春、单教伊子黃正中、与神保上学時更名張体仁。／接個廩生李老師、单教伊子黃正中、神保張体仁。
14. 一日上街去買紙筆、見有耍把戲的、真足取彩、伊即請到茶館、言要學一二套。……〔正中見摺上有移眉法。〕一日私自上街、花錢學套把戲、是個移眉法。
15. ×／〔講説〕在位、要曉得張体仁中拳、因父行孝也。黃正中不中、因

侮慢師長也。

16. 報子道、這封書是李老師叫我送在員外府中來的。……〔謳〕叫夫人上

前來你且聽話。……／×

10. 「忘恩負義」——女婿的忘恩

娘が恩義を忘れた夫に殺されるが、雷神が蘇生させ、夫を誅殺する。婿として養育された乞食の男は、出世すると赴任地を訪ねた妻の殺害を謀る。妻は獄吏の娘の犠牲によつて救われ、雷神が婿を殺し、娘を再生させる。

昔、新寧県（湖南）、曾志仁。落第書生。張棟材という乞食の子を娘蘭香の婿として教育し、解元に及第させるが、蘭香と婚礼を挙げないことを疑つて、恩義を知らないことを揶揄する。棟材は良心の痛みを覚えるが、探花（三席）に合格すると、宰相王輔の娘蕙英と結婚して河南道に赴任し、志仁と蘭香を県令に捕らえさせる。獄吏と妻杜氏は同情し、娘秋香が身代わりに死ぬ。志仁が雷祖廟に訴えると、霹靂が落ちて棟材を撃ち殺し、秋香を蘇生させる。蘭香と秋香は出家し、志仁は河南知府を授かる。

三 孝行案五篇

2. 「滴血成珠」（四十葉）——孝女の復讐

孝女が困難にもめげず父親の復讐を果たし、包公がその純潔を証

明する。この案証には、「長編の案証で、一気に講じ終えてはならず、交代で講じるか、二回に分けて講じる」(「長案、勿一气講完、或輪講、或二次講」と注記する。娘が父を殺した権力者の伯父を訴えるため三度にわたって河南に下り、婚約者から純血を疑われたため、もう一度河南に下るといふ、孝心と貞節を称揚する感動の物語であり、娘の度重なる河南行が長編案証を構築している。

宋朝仁宗が在位し包公が宰相の時、四川保寧府巴州、富豪趙如山の子秉蘭。武挙。異母弟の子秉桂、儒生。秉蘭父子は遺産を奪うため秉桂の妻田氏が子良英と娘瓊瑤を連れて正月十五日に実家に帰省した時に乗じて秉桂を毒殺し、楼から落ちて死んだと偽るが、秉桂の冤魂が田氏と瓊瑤の夢に出て訴え、田氏は位牌を南荘の祠堂へ移す。田氏は秉桂の母方の叔父岳在仁に相談すると、李婆が毒殺現場を目撃しており、劉忠信に代書を依頼して巴州に訴えるが、太守趙文炳は秉蘭を招待して告訴の件を告げ、秉蘭は検死官に贈賄して訴えを棄却させる。田氏と瓊瑤は保寧府に上告するが棄却され、川北道に上告すると、閬中・通江・劍州の官が招集されるが、三官は権臣趙荀欽の甥である巴州太守に詔って訴えを棄却し、さらに城都省按察布政巡按に上告しても同様に棄却される。母と娘は絶望するが、雨宿りした河南の秀才古成璧に相談すると、上京して包公に訴えよと示唆される。母子三人は河南の古家に身を寄せ、瓊瑤と成璧の婚姻を約する。母子三人は店主趙虎の助言で包公に訴えるが、包公は田子真の妻羅惠英を強奪した武宣王を斬首したため罷免されて廬州合肥県に帰っており、荀欽が代理を

して母子三人を巴州へ送る。秉蘭は窃かに瓊瑤を痞流王黒蛮に売り、瓊瑤は縊死するが蘇生し、包公が復職したと聞いて上京する。だが包公は陳州の飢饉救済に出て不在であり、趙虎の店に宿泊するが、母が病死したため、瓊瑤は弟を真武観の道士の徒弟とし、趙虎の母の養女となり、白衣庵で女子を教えて包公の帰還を待つが、荀欽を包公と間違えてまた巴州に送り返され、富商張化堂の妾として売られる。化堂夫妻が瓊瑤の喪服を見て孝女と認めて養女とすると、県城隍となった瓊瑤の亡父が一子天佑を授ける。瓊瑤は三度目の河南行を試み、山賊になった叔父田豹の援助で上京する。田豹は巴州に潜入して、陰地の詐取を謀る富豪龔姓・訟棍吳秀才・州太守を殺し、さらに炳蘭と二子を殺す。瓊瑤は成璧が縁談を固辞したため、四度目の河南行によって包公に訴え、包公は滴血成珠の方法で瓊瑤が処女であることを証明する。

この案証は、湖南唱本『新刻滴血珠全部』五卷³⁸、彈詞『滴水珠』四卷四回³⁹、京劇『趙瓊瑤』⁴⁰、廬劇『滴血珠』十七場⁴¹、高甲戲『試掌中血』⁴²などとして上演されている。

4. 「天賜孝粟」(九葉) — 夫婦の孝行

夫婦が愚母のわがままに耐えると、天が悪人の殺物を奪って夫妻に下賜する。

本朝道光二十七年、嘉興(浙江)白水村、周大来。貧乏で富者張叔位の小

屋に住んで下働きをして老母朱氏を孝養する。朱氏が肉を要求したため、蓮花閣で勸世文を歌って肉を買うが、飢饉でお粥しか無く、朱氏が池に捨てると、雷が起る。夫婦が老母のために懺悔すると、天が白米を降らせるが、それは叔位の倉の米であり、叔位は天が米を夫婦に贈ったと考え、日頃の悪行を懺悔する。

17. 「孝遇奇縁」(十二葉) — 孝子の出世

孝子に幸運がめぐって難問を解決し、進宝状元を授かる。

明の時、四川我眉県⁴³、青傑。一子青奇。青傑の死後、母何氏と暮らす。叔父何福の紹介で県の王易仁の手伝いをする。婚約者の父周寛から盗賊が盗んだ驟馬の場所を暗示すると、周寛は青奇が仙術を解すると誤解して、母子を周家に住まわせる。この時、西京の四王子が国母の眼病治療のため遂寧県に祈願し、我眉県を通過したが、外国から献上された白鸚鵡が逃げ、青奇が捕らえて賞金を授かる。都の首相賈国治は謀反をくわだて、張三才と李四維に玉璽を盗ませる。青奇は四王子に推挙されて煩悶し、子を井戸桁に置いて水厄があると偽ったり、馬小屋に放火して火厄があると偽ったりして逃れようとするが、観念して上京し、四十九日の齋戒が必要だと上奏する。国治は青奇を恐れて偵察すると、青奇の「飯」という醉言を「賈」と誤解して自宅に招待し、良策を求めると、青奇は国治に悔悟させ、玉璽を東嶽廟に置かせる。青奇は玉璽を見つけた功績で進宝状元を授かる。

19. 「鳳凰山」(十一葉) — 孝子の母捜し

孝子が苦難を克服して正妻に追放された生母を捜し出す。

嘉靖年間、登州果山県⁴⁴、王基の妾柳氏の子宜寿。王基の妻安氏が嫉妬して母柳氏に何も与えず追い出したため皮膚が爛れて死に、続いて王基も死ぬと、母を捜すため家を出る。文昌帝君に祈願すると鳳凰山を示され、途中で民家に泊まって母親に不孝な伍朝佐の甥廷選を「勸孝歌」で諫め、民家を出て強盗に遭って持ち物を奪われるが、冷廟に雷雨を避けて乞食をする母に再会する。強盗は廷選であり、雷撃を受けて死んでいた。

『觸目警心』卷四「鳳凰山」(三千四百八十八字)／『宣講摘要』卷一「鳳凰山」(五千九百五十三字)

1. 百行第一孝当頭、(七言四句)／×
2. 嘉靖年間、登州果山県／唐、雲南果山
3. 王基謂其妻曰、我家財産頗富、／王基嘆口氣道、賢妻你聽。○「悶厭厭、坐房中、嘆氣不了。……」
4. 柳氏聽得要将他母子分離、遂大哭說道、(謳)「時纔大娘把話叙。……」／安氏眉毛一豎說、你敢与我作対嗎。大怒罵道、○「你者東西好混障。……」
5. 柳氏抱兒、遍体撫摸、不覺兩眼流淚哭道、(謳)「手抱嬌兒好悽慘。……」／×
6. ×／安託鄰婦熊利氏、混名利嘴婆、勸柳氏改嫁、……。

- 7. × / 不料安氏……在柳氏懷中將兒奪出、……高声罵道、○「罵声畜生好大胆。……」
- 8. 柳氏出外、因久受饑困、…… / 柳氏出門冷得打戰、……哭道、○「柳氏女、止不住、泪流滿面。……」
- 9. × / 打得柳氏大喊哎喲、……○「者一陣、打得我、背脊要斷。……」
- 10. × / ○「出門來、泪滾滾、只把天喊。……」
- 11. × / 有回躲倒哭声媽、……安氏聽見、脫了衣服、用竹条苦打。
- 12. × / 忽一日、有人言、利嘴婆浑身生蛆、口說報心。……
- 13. 王宜寿將康氏妻子喚出堂前、分咐說道、〔謳〕「叫声妻、上前來、夫有話嘆。……」 / 宜寿將大娘葬畢、過了七七、乃吩咐康氏道、「妻呀、我家衣食豐足、……」
- 14. 遂跪神前曰、〔謳〕「王宜寿、跪神前、把話上表。……」……忽聽有人大声言曰、「宜寿記心間、巴渠二江辺。要会你母面、急到鳳凰山。」 / 再說柳氏在渠渠・巴渠交累之處、有一鳳凰山。……〔歌〕「獨自背柴在山岡。……」……劉氏這樣全節受苦、豈無神明鑑察嗎。故宜寿尋母、也就往四川者条路來了。……兩賊將宜寿衣服銀錢偷盡去了。
- 15. 「我乃姓伍、名朝佐、兄名伍朝輔。……不料家兄去歲棄世、……姪兒名伍廷選、……不孝母親。」……王宜寿也向廷選說、「伍先生。……我有一段格言、唸來你聽。〔歌〕「衆人靜坐仔細聽。……」……那些強人將他包袱行李概行搶去。……〔謳〕「天哪天、王宜寿、命運淺。」……時纔雷打死一人。…… / ×
- 16. × / 遇一妖物如婦人、被髮至地、……望山神慈悲、……那怪大吼一声、

就不見了。……遇一猛虎、……那虎轉往山坡縱去了。……桶大一条蟒蛇、……蛇影不見、這是宜寿孝心所感。……宜寿回轉走了、一日路過文昌宮、……祝曰、「王宜寿、跪在塵、三跪九叩。……」……於是母子大哭道、○「我的媽、也還在、不由為兒哭哀哀。……」 / 「宜寿兒你且立站。……」

20. 「虐母化慈」——孝女の感化

孝女が嫂を虐待する愚母を感化する。善良な娘は我が子を誤って殺した嫂を許し、意地悪な母を感化する。

宋の時、梓潼県及河口、鄒光前の後妻劉氏。性悪で前妻の子騰芳の妻荆氏を虐待する。娘鄒英は常に荆氏を擁護し、曹氏が前妻の子の嫁を虐待して家畜に転生したことを話して諫める。劉氏は廟に参詣すると、牛飼い王二に牛馬に転生すると嘲笑される。鄒英は相家に嫁いで、夫天才の不孝を諫め、舅姑によく仕えるが、実家に嬰兒を連れ帰って、荆氏と話に夢中になり、嬰兒を火鉢に落として焼死させる。鄒英は荆氏をかばい、舅姑も鄒英に同情する。劉氏はこれを見て反省し、荆氏をいたわるようになる。鄒英が病気に倒れて荆氏が天に祈ると、太白金星が紅丸を吞ませて病気を治す。

四 兄弟案一篇

23. 「愛弟存孤」——子か甥か

夫婦が子を棄てて甥を育てるが、子と再会する。戦乱で夫婦は我が子を棄てて弟の子を育てると、度重なる苦難を経て我が子と再会する。

唐の時、安徽省太平府繁昌縣永興場、白文炳。弟の文挙が酒を貪って崖から落ちて死に、文挙の妻も病死したので、妻蔡氏に弟の子貴生を育てさせる。安祿山の乱が安徽にも及び、文炳と蔡氏は我が子福生を棄て、貴生を護って避難する。李光普は虎が嬰兒に授乳しているのを見て義子として育て、退職して揚州へ帰郷する。文炳は五河縣で同郷の方正達・全和理と船するが、二人は悪人で、天長縣で文炳を河に落とし、非難した正達の妻顧氏も河に落とされ、貴生も和州含山縣で棄てられる。貴生は商人柳逢春の義子となって揚州に行く。文炳は九江口で漁師何成玉に救われる。顧氏は孝子孔懷璧に救われて孔家の養女となる。蔡氏は娶ろうとする正達と和理を殺し、血書を遺して縊死する。近所の王牛児は蔡氏の墓を盗掘すると、蔡氏が蘇生したため背負って帰宅し、義兄妹となる。何老は文炳に再婚を勧めて顧氏を紹介する。蔡氏は牛児が強盗として捕らえられたため、他郷へ乞食に行く。牛児も釈放されて蔡氏を捜しに行く。文炳・顧氏は何老が死去して二子永慶・永祥が分家したため何家を離れる。永慶は永祥が文炳に贈った餞別を辛三・丁四に盗ませる。永慶は後に家業を廃らせる。光普は福生を白逢虎と改名し、娘翠枝と婚約させ、息子承德と入学させる。蔡氏は揚州に来て逢虎に出会って李家に住む。貴生は逢春夫妻が死去したので、載陽と改名して揚州に至り、文炳・顧氏に遭って父母として養う。逢

虎は光普夫婦が死去した後、科挙に及第して太平知府として蔡氏を伴って赴任する。載陽も文炳の指導で科挙に及第して繁昌縣に赴任し、永慶の窃盗案を裁判して父命により釈放する。蔡氏と顧氏は蔡氏の誕生日の宴会で遭い、互いに経緯を語り合って白氏一家はめでたく再会する。牛児も後に到着する。

五 夫婦案十一篇

3. 「白雞公」——賢妻の忍耐

賢妻が隣人の誤解に忍耐する。妻は隣人の誤解に忍耐すると、誤解した隣人が疑心暗鬼を生じて恐れ、夫の出世を援助するという案証であり、忍耐の不可思議な力が物語性を呈している。

道光間、安化縣（湖南）、黃玉堂の妻王氏。玉堂は義父の埋葬のため身を売る婦人を救い、妻王氏も隣家から白雄鶏を奪われても我慢して、玉堂の出世の道を開く。

なお『宣講摘要』巻二「助夫顯榮」、『宣講大全』「助夫顯榮」は約五千字で「白雞公」の二倍の長さを持っており、『觸目警心』はこれを簡略化したと思われる。今、両者を比較してみると、もとの「助夫顯榮」は叙述が詳細であり、玉堂が貧乏だが善行に励む、住む家は無く家を借りている、婦人が埋葬費用の無いことを嘆く、主

人が家の内情を語る、賢明な妻が玉堂に書写の紙を買う金を準備する、玉堂が書写に巧みで雄鶏と交換する者が現れる、王老陝が白雞公を捜す所以、王老陝が玉堂を鄭重にもてなす言葉、など描写が生き生きとしている。ただ「白雞公」にも、王老陝が以前に誣告罪で処罰されたため玉堂を恐れるなど、詳細な叙述も見られる。

『触目惊心』卷一「白雞公」／「宣講摘要」卷二「助夫顯榮」

1. ×／雖然家道寒微、亦好敦行善事。
2. 幸祖輩所留店房一座、夫婦安身。／因坐居城内街市之間、既無園圃房屋、佃錢又貴。
3. 偶遇一家人戸哭泣不止。／那婦人在內哭曰、「(諷)」痛傷情、不由我、珠淚下降。……」
4. 却說這家人戸、姓王、名二喜。／主人說、「小人姓楊、名喚二喜。……」
5. 玉堂善於書写、是日出街去壳对聯。／李氏言道、「夫君作此大大陰功、能為人之所不能為。……為妻存有線子三斤、壳之稍助、將錢買紙、書写对聯發壳。……」
6. 忽来一人、提白雞公一隻、玉堂買成。／人見其字跡恭正、……爭相去買。……忽見一人、提白雞公……。其人曰、「掉幾副对聯、不知可否。」
7. 有一王老陝、……開座当舖、……失去白雞公。／有一当舖、……王老陝吩咐請的先生把那白雞公宰了、一則可以敬神、一則可以宴酒。
8. 王老陝為何如此驚嚇。却原前不兩年因舖內失去幾件貨物具控官前、至

後審實、誣良為盜。／堂堂乎一個秀才、豈肯平空受這個賊名、……必要興詞告狀。

9. 王老陝一見怕公講話、遂接他家過節。／王老陝開言說道、「(諷)」請大駕、無桂穀、莫嫌酒淡。」

5. 「戒烟全節」——賢妻の受難

賢婦が忍耐強く愚夫の阿片中毒を戒める。妻は阿片中毒の夫に身を売られるが、身を買った人に救われ、夫も悔悟し、人を助けて幸福を得る。

道光時。滕子吉の子滕奎は愚鈍で正業に務めず、洋煙に溺れて債務がふくらみ、子吉に叱られてやめるが、子吉の死後、また悪友に唆されて始め、妻柳翠英に一晚だけ大戸鄒永発の相手をせよと命じる。翠英は鄒大戸に訴えて理解を得、滕奎が後悔して煙をやめたため、鄒大戸は夫婦を援助する。翠英がある晩宿所がなく困っていた客を泊めると、それは銅関県の県令であり、謝礼として大金を贈られる。

6. 「白玉圈」——節婦の受難

善良な妻が悪党に奪われそうになるが、善人に救出され、出世した夫と遂に再会する。

昔、山東濟南府撫州⁴⁵、馮開順。娘桂英の婚約者の沈歩雲を引き取って読

書させる。歩雲は桂英と結婚し、家宝の白玉圈を桂英に預ける。いとこの方応奎は、桂英に恋慕して、家僕劉二の奸計を用いて、城隍廟に開順と歩雲を泊ませ、王小二に歩雲の殺害を命じるが、小二が誤って劉二を殺害したため、歩雲を誣告する。陳州守は歩雲を死罪と結審する。桂英は投身自殺を図って漁師に救われ、白玉圈を売ると、陳状元がそれを見て桂英と認める。陳状元は歩雲であり、陳州守が病死した唾の子を歩雲に偽装して、歩雲を養子として、状元に及第していた。劉二を殺害した小二は、劉二の靈魂が憑依して罪を自供する。応奎と小二は斬首される。

この物語は「漢川善書」が継承しており、油印本『白玉圈』では、歩雲が白玉圈を妻である桂英に贈る言葉を宣詞で表現したり、応奎が歩雲だけを自宅に招いて侍女殺害の冤罪を被らせたりするなど、工夫を加えている。

『触目警心』卷二「白玉圈」(八千七百三十二字)／油印本『白玉圈』(約七千字)

1. 天眼恢恢在上、疏而不漏毫分、……／×
2. 昔、山東濟南府撫州城南門内、有一人、姓馮名開順。……始生一女、乳名桂英。……自幼許配東門沈天官之子沈步雲。／這段書、出在大明正德年間、山東省濟南府撫州城、有一儒生、名叫沈步雲。父親昔日在朝、身為天官。……就在岳父馮開順家中攻書、……所生一女、取名桂英。
3. 「賢妻呀、此圈名曰玉宝圈、我父在朝先王恩賜之物、遺留已久、賢妻

好生收拾。」／〔宣〕「……無個宝先王賜價值數万、交与妻取藏好要把心耽。……」

4. 応奎道、「姑父表兄、……不如在廟中歇宿一宵。／叫劉二前往馮家接沈歩雲來府飲宴。」

5. 王小二提刀在手、……只道是沈歩雲、……劉二早已嗚呼哀哉了。／忽有家人大声喊叫、「不好了。壽琴環在書房門前、被人殺死了。」

6. 忽夜四更、禁子來報、沈歩雲監中斃命。／恰好這陳大人的唾巴兒子病死、便叫衙役將歩雲放了出來、只說他牢死獄中。

8. 「集冤亭」——貞女の受難

娘が殺害されながらも書生を愛し続けて再び結婚する。娘は書生に恋をするが好色な男に殺されてその男を取り殺し、冤罪を被った書生の無罪を証明して、転生する時に男の祖父に男との結婚を迫られるが、閔帝が転生を助けて書生と結婚させる。

昔、南龍⁴⁶、郭長春の娘翠娥。楼上から書生呉正品を見て恋する。これを見た蔡倫の子子飛が正品を装って翠娥の楼に忍び込むが、翠娥に怪しまれて殺し、刺繡鞋を盗み去る。翠娥の亡霊は呉生に訴え、呉生も悲しむ。翠娥は子飛の喉を引つ掻いて殺し、蔡倫は側にいた呉生を訴える。翠娥は県令の姪趙銀姑に憑依して子飛が犯人であり、刺繡鞋を妻周氏に渡したと証言したため、子飛は処刑されるが、転生する時に集冤亭を通過し、鞆司が子飛の祖父であったため、子飛との結婚を迫られる。翠娥の嫡母何氏の

亡霊が帰宅して夫郭三全と共に聖帝に訴えると、帝君は王刺史の娘湘裙に転生させ、刺史は事情を聞いて呉生と結婚させる。

9. 「双還魂」——夫婦の受難

夫婦が殺害されても蘇生して再び結婚する。継母は婿の貧窮を嫌い、娘に離縁を迫って婿の毒殺を謀るが、誤って実子を殺したため婿を訴えて獄死させる。娘は再婚を迫られて縊死するが、婿とともに再生して改めて結婚する。

昔、桂陽（湖南）、秦平章の曾孫の嘉樹の妻は胡承恩の次女。紙鳶を夢見て娘飛瓊を生む。胡氏の死後、後妻趙氏は一子愛児を生む。嘉樹は飛瓊の婿に桂華の一子秋栄を選び、桂華の死後、秋栄に読書させるが、趙氏は貧乏な秋栄を軽蔑し、飛瓊に離縁を勧めるが聴かないため、秋栄の毒殺を謀る。秋栄は亡父に遮られて毒酒を飲まず、愛児が飲んで死んだため、趙氏は秋栄が毒殺したと嘉樹に誣告し、夫婦は獄吏を買収して秋栄を殺させる。閻魔は秋栄が文曲星の転生だと知ると、口に還魂宝珠を含ませる。夫婦は飛瓊を王姓に嫁がせるが、飛瓊は王家で縊死し、艾狗狗が墓を暴くと飛瓊は蘇生する。狗狗は死ぬという飛瓊を説得して家に住まわせ、狗狗が盗賊として捕らえられて飛瓊は遊郭に売られるが、艾母は県に訴えて飛瓊は県の養女となる。狗狗は墓の中の声を聞いて秋栄を救い出し、秋栄は狂風によって嶺南に吹き飛ばされ、飛瓊と再会する。

12. 「貞烈女楼」——貞女の受難

善人の子と嫁が危害を受けるが起死回生して結ばれる。善行によって授かった子は殺されるが、起死回生の宝珠を得て再生し、婚約者の娘は再婚を強要されても貞節を守って身投げし、再生した子と結ばれる。

国朝咸豊九年、甘肅省正寧州ぎやう、牛文仲。善行によって一子良玉を授かる。文仲の妹婿向南斗は良玉に娘彩雲との婚姻を勧める。良玉は癩蝦蟆の吐いた紅珠を王屠戸に預けて病父の肉を買うが、文魁星が起死回生の宝珠だと告げて奪い取り、良玉は屠戸に宝珠を要求して殺される。彩雲は嫂邱氏が羅亭玉の子紹基との再婚を紹介するが、逃げて牛家に住む。南斗は彩雲が誕生祝いに来た時に乗じて轎で羅家に送ろうとするが、池に身投げした彩雲を観音が救い、州守は彩雲の訴えを聴いて羅亭玉父子を捕らえる。布疋（布政使）は収賄して紹基との結婚を認め、彩雲は羅家に送られるが、途中で州守に遭って救われる。屠戸が良玉の宝珠を盗むため墓を暴くと、良玉が蘇生して彩雲と結婚し、良玉は進宝状元を授かり、彩雲には貞烈女楼が建てられる。

14. 「双槐樹」——夫婦の受難

夫婦が悪い弟嫁に引き裂かれながらも再び結ばれる。弟の嫁は財産の独占を謀って兄の子を戦場に送り、兄の嫁を再婚させようとすが、兄の子は道士から宝剣を授かって戦功を立て、兄の嫁と姑は

逃れて兄の子と再会し、兄の子を援助した弟の子も出世して、弟の嫁は雷に撃たれて死ぬ。

宋の時、双槐樹、兄包克寛の子洪恩は武道を学ぶ。嫁馮蕙蘭は孝順和睦。

弟包克仁の妻朱氏は毒婦で、子洪貴は讀書する。克寛が逝去し、西番の叛乱が起こると、朱氏は財産を独占するため、洪恩を参戦させる。洪貴は銀と馬を提供するが、甥朱標に奪われる。洪恩は道士から銀・衣・宝剑を授かつて辺境に向かう。洪貴は盜賊に遭つたためそのまま遊学する。朱氏は朱標を養子にするため、蕙蘭に拷問を加えて再婚を迫る。朱氏が姑李氏と蕙蘭に羊飼いをさせると、羊が二人を暖める。二人は逃亡して乞食をする。十年後に洪恩は凱旋して西平侯に封じられ、洪貴は会元に及第して帰郷し、朱標を斬首する。朱氏が双槐樹の下に李氏と蕙蘭の偽の墓を作ると、二人が帰郷して洪恩と再会する。朱氏は雷に撃たれて死ぬ。

15. 「鴛鴦巧瓶」——節婦の受難

節婦が権勢者に姦淫を迫られるが包公に挫かれる。悪友は妻に横恋慕して夫を毒殺するが、包公が妻の訴えを聴いて悪友を裁く。

宋朝、钱塘県、張伯廉。子紹渠。呉孝廉の娘蘭英を娶る。伯廉が死ぬと、好色な都司の子孫翰が葬儀に参列する。紹渠は孫翰が自分の才能を認めたと誤解する。孫翰は蘭英に言い寄り、蘭英と紹渠は怒って絶交する。孫翰は劉鼎甲を買収して陰謀を授かり、紹渠を家に招待する。紹渠は蘭英の諫

言を聴かず出かけて鴛鴦壺に入った毒酒を飲んで死ぬ。蘭英は県に訴えるが、孫翰が贈賄してもみ消す。この時、包公が飢饉救済に訪れて呉氏の訴えを聴き、孫翰を招待し、紹渠の亡霊を演じて犯行を自供させる。

16. 「成人美」——貧婿の受難

書生が岳父に離婚を迫られるが、友人の粹な計らいで婚約者と結ばれる。

国朝雍正年間、江西省広信府桂溪県⁴⁸、丁光耀。文學。一子繼蘭。武拳莫天相の娘素貞と婚約する前に光耀が死ぬ。繼蘭は光耀の遺言を歌詞にして皆に聴かせる。天相は繼蘭の貧困を喜ばず、援助を拒む。妻管氏は怒って銀百両を貸す。管氏は素貞に三従四徳の意味を質し、七出八則・十不可の意味を講じる。天相は繼蘭を招待して素貞が廃人になったと偽り、常抜貢に離縁を勧めさせるが、抜貢は怒って退席し、繼蘭は離縁状を書かされる。抜貢は学堂で讀書に励む王進士の子之臣に遭って気に入り、妻古氏と相談して娘芙蓉の婿にして援助する。繼蘭は恒尚義の援助を得て試験を受ける。尚義は妻卜氏の死後に再婚を考えるが、仲人成全が素貞を紹介したのに乗じて、繼蘭を婚礼に招待する。素貞は侍女玉梅に促されてとりあえず恒家に嫁ぐ。尚義は繼蘭を酔わせてベッドに寝かせ、素貞と書屋を共にさせる。後に四人の書生は会試に合格する。天相は状元繼蘭に面会に来るが、四人から嘲笑を受ける。

書生が岳母に貧乏を嫌われるが、婚約者とその侍女の援助を受け、危難を乗り越えて科挙に及第し、母とも再会する。

明朝、河南洛陽県、方定。御史。一子方卿が一歳の時、嚴嵩父子の迫害により死去する。翰林出身の姑父陳廉が弁護して母李夫人と棺を運んで帰郷する。方卿は李夫人と相談して科挙受験の旅費を借りるため山東の姑父を訪ねる。山東に着くと、古い師が富貴の面相だと叫ぶ。陳家に着くと寄奴が出迎え、陳廉は衣服を着替えさせて誕生祝いの席に出させるが、侍女紅芸が夫人に讒言したため、夫人は路銀を貸さず、方卿は出口を間違えて娘翠娥の侍女采蘋に出会い、翠娥から珍珠と宝塔を贈られる。陳廉は方卿の後を追って路銀を贈り、方卿は白玉蓮墜を贈って、翠娥との婚約を交わす。方卿は強盗に遭って荷物を奪われ、井戸に落とされるが、畢大人に救われる。強盗は宝塔を陳家の質屋に出したため、陳廉は強盗に犯行を自供させるが、方卿が見つからず、寄奴を洛陽に遣る。方卿は使者を洛陽に遣るが、使者は途中で病気になる。李夫人は飢饉を避けて山東に至り、尼寺で方卿が死んだと聞いて下働きをする。翠娥は陳廉の病氣快復祈願のため尼寺に詣でて李夫人に会う。方卿は科挙に及第して十二府巡按に任命され、道士に扮して尼寺に至る。李夫人は方卿が妻を棄てて出家したと誤解する。采蘋は陳廉に知らせ、方卿は陳家に招かれ、翠娥は方卿の服装を見て悲しむ。方卿は事情を話し、改めて李夫人に会い、翠娥・畢氏・采蘋を娶る。古い師が再来し、宝塔を梁上に投げて清官となるよう戒める。紅芸は悪病に罹つ

て死ぬ。

24 「嫌妻受窮」——醜妻の幸福

醜女が美貌を得、婚約者も背が伸びて幸福を得る物語。醜貌の妻が夫の虐待に耐えると竈神の加護で美貌を得、婚約者のせむし男も腰が伸びる。醜貌を嫌った夫は妻を虐待して貧窮する。

道光の時、福寧州(福建)⁴⁸、徐廷貴。妻李氏。夫婦は「竈君戒規」を遵守する。娘妹児は徳性こそ優れていたが、容色はなぜか成長するにつれて劣っていった。夫となる柳廷玉の子金桂はわがままで貧乏人を嫌い、妹児の醜貌を見ると父母を怨んで妹児を相手にしなかった。廷玉夫婦は妹児に他家への再婚を勧めたが、妹児は聴かず、金桂の虐待に耐える。竈王府君は夢で妹児に昆黎山の李身它子の子小身它子に嫁げば美貌になると示唆する。小身它子は結婚を喜んで石につまずくが、起きると腰が伸び、妹児も夢で顔を搔かれて美貌に変わる。不思議なことに李家の塀の煉瓦は金銀であり、裕福になって双子金児・銀児が生まれる。金桂は呉黒子と婚約していた張小作人の娘秀英を奪ったため訴えられた上に、災害と疫病で父母も秀英を失い、乞食をして妹児の家に至る。妹児は饅頭の中に銀を隠して贈るが、姑がその饅頭を買って帰る。金桂は後悔して洞中で病死する。

六 冤罪案一篇

25. 「双屈縁」——兄弟の冤罪

兄弟が同時に姦通殺人の冤罪を被る物語。文武に優れた兄弟が犯罪者と疑われるが、容疑者の妻の弟が出世して赴任し、兄弟の嫌疑を晴らす。

昔、山東済南府臨都県³⁰、潘生。観音院で教える。生徒の朱成富はよく勉強し、兄成武が結婚もせず支援する。隣家の胡玉の息子学古は愚鈍で、妻陳連珠は成富の読書に感心する。清明節に胡玉が妻子と墓参りに行くと、連珠は孤独の身を悲しみ、塾の手伝いの李文稀が上京すると聞き、留守をしていた成富に母と弟天柱への手紙の代書を依頼する。姑黄氏は連珠が成富に鶏と酒を贈るのを見て怒り、学古が成富の食べ残した鶏酒を食べて血を流して死ぬと、連珠と成富が姦通して学古を殺したと訴える。知県頼文才は男女を拷問して投獄する。」鄭文英は父が官糧を収めず投獄されたことを妻王氏に告げ、王氏の簪・腕輪を質に出して帰り、さらに王氏の実家に借金に行くが、それを賊が聴いて盗もうとして王氏を刺して逃げる。そこへ成武が成富を救うために夜行して表弟である文英の家に宿泊に来て、文英から王氏を殺したと訴えられる。天柱は北京順天府の劉天遂の義子となり、武解元に及第して帰郷するところに連珠の手紙が届き、臨都県に赴いて護送される連珠らを救出して北京に至る。天遂は兄で吏部の劉文進にはかり、天柱と私服で臨都県を調査するが、途中で盗賊周非友に荷物を奪

われる。非友は捕らえられて王氏の殺害を自供する。また観音院に鶏肉を置くこと蜈蚣が現れ、学古は蜈蚣の毒で死んだと判明する。勅旨が下って県令は解任、非友は斬首、成富は胡玉の義子となって連珠と結婚する。

七 結論

清光緒年間に湖北沙市の善成堂が刊行した宣講書『触目警心』五卷は、各巻五篇ずつの案証を収録しており、主題は善悪・孝行・兄弟・夫婦・冤罪などに分類できるが、それらは単行本としても刊行できる形態を取っており、内容も単純に教訓を説いたものではなく、多数の人物を登場させて起伏のあるストーリーを展開しており、宣講が時代を下るにつれて物語性を持つ娯楽性の強いもの、すなわち芸能に変容していったことを知ることができる。これは当時の聴衆のニーズに合わせた結果であろう。

注

- 1 早稻田大学風陵文庫蔵本五冊。上海図書館蔵本六冊。
- 2 魏隱儒編著『中国古籍印刷史』（印刷工業出版社、一九八八年）、第十四章「清代的彫版印書事業」第三節「坊刻本」（百七十二頁）に、「善成堂也是晚清規模較大、刻書較多的一個書肆，為四川傅氏出生開設。總号設在重慶；成都、江西南昌、湖北沙市、漢口、山東東昌、済南、河北泊鎮和北京都設有分号。」

- 3 王百川纂『民国沙市志略』（二九一六年）沿革第一に、「施廷枢『府志』紀鄉鎮、沙市、一名沙津、一名沙頭。在城東南十五里。沙草二市、為江陵諸市之最大者。就中沙市、尤為浩穰。列肆則百貨充物、肆頭則万舫鱗集。黃義尊『江陵原志』鄉鎮、「……元微之詩、闌咽沙頭市、玲瓏竹岸牕。知其盛、在唐時已然矣。」（『中国地方志集成』湖北府県志輯³⁸、江蘇古籍出版社・上海書店・巴蜀書社、一九九〇年）乾隆『江陵原志』鄉鎮に、「沙津為三楚名鎮、通南北諸省、賈客揚帆而來者、多至数千艘、向晚蓬灯遠映、照耀常若白昼。」参考：聶成茹「兩本百年古書中的沙市」（江漢商報、二〇一二—二〇一四期）等。
- 4 中央研究院藏。封面「光緒戊申季春鐫巴蜀善成堂藏板」。収録案証三十篇。
- 5 参考：阿部泰記「山東の宣講書『宣講宝銘』残巻について」（山口大学文学会志、六十二号、二一—三七頁、二〇一二年三月）。
- 6 「号」は頁数を示す。以下、省略する。
- 7 四卷三十案。封面「光緒戊申春月、經元書室重刊」。早稲田大学風陵文庫蔵。『宣講福報』巻一「五桂聯芳」（原典『寿世元』）を転載。なお『宣講拾遺』巻四「燕山五桂」は異文。
- 8 四卷二十七案。四卷三十案。封面「光緒戊申春月、經元書室重刊」。早稲田大学風陵文庫蔵。『宣講珠璣』巻四「滴血成珠」（宣十四場）、『宣講大全』「滴血成珠」を転載。後に『消劫大全』巻五、『宣講全集』第一冊（民国三十六年初版、漢口鑫文出版社選輯、重慶大
- 同書局発行）に転載する。『消劫大全』巻五の第一行には「消劫大全卷五高靈原手書古臨江挽劫堂編輯」、第二行には「滴血成珠」と「触目惊心」を記す。漢川善書演目。湖北省漢川市政协學習文史資料委員會編『漢川文史資料叢書』第二十一輯『漢川善書』（二〇〇五年十二月）「善書案伝」収録。
- 9 不詳。『宣講摘要』巻二「助夫顯榮」、『宣講大全』「助夫顯榮」『宣講管規』巻五「全節得榮」は異文。前掲『宣講全集』第二冊に転載する。漢川善書演目。『漢川善書』（二〇〇五年十二月）「善書案伝」収録。
- 10 封面裏「石照雲霞子編輯・安貞子校書」。現存の『福縁善果』に収録する案証は、第一巻「天官賜福」「閨女訓子」「烏碧免災」「賭場活祭」「鴛鴦巧瓶」（于頭、二〇〇九年七月、孔夫子旧書網出品）、第二巻「剪髮完貞」「疑姦殺父」「忘恩負義」、第三巻「彩霞配」「冤中冤」「麒麟閣」「血書」「碧玉圈」（玖鑫書屋、二〇一二年三月、孔夫子旧書網出品）、第四巻「師弟異報」「天賜金馬」「嫌貧分産」「完貞証果」。『福縁善果』三冊三卷本は、各巻七篇の案証を収録しているという。封面「光緒癸巳年季春月重刊／福縁善果／成都王成文齋藏板」。槐軒一脈、二〇〇七年六月、孔夫子旧書網出品。
- 11 四卷二十四案。大連図書館蔵。封面「民国乙卯年重鐫／浪裏生舟／新都鑫記書莊藏板」。雲霞子編・石照自省子校書。『浪裏生舟』巻三「戒烟全節」を転載。
- 12 存一、三、四卷十八案。上海図書館蔵。封面「民国三十年新刻

- ／万善婦壹／儒興堂藏板」。石照雲編輯、安貞子校書。『万善婦一』
 卷二「白玉圈」を転載。後に『消劫大全』巻五に転載する。注6
 参照。油印『白玉圈』（荊州）の単行本は異文。漢川善書演目。
 13 八卷六十一案。光緒戊申（一九〇八年）仲夏、西湖俠漢、漢口
 六芸書局序。首都図書館等蔵。本案は現行『宣講大全』に収録せ
 ず。『宣講集要』巻十一「方便美報」。
 14 『万善婦一』巻四「集冤亭」を転載。
 15 『万善婦一』巻二「双還魂」を転載。漢川善書演目。
 16 『福縁善果』巻二（四川德陽市雒城空間、二〇一二年十二月、
 孔夫子旧書網出品）収録。注8参照。
 17 『宣講珠璣』巻三（宣六場）を転載。
 18 不詳。
 19 不詳。漢川善書演目「修橋獲金」。
 20 『保命金丹』巻三（現存）に収録せず。本案は前掲『宣講全集』
 第二冊（民国三十六年初版）に転載する。漢川善書演目。『漢川
 善書案伝目録』（二〇〇六年十一月）掲載。
 21 不詳。漢川善書演目。
 22 不詳。漢川善書演目。漢川市非物质文化遗产保護中心『漢川善
 書案伝目録』（二〇〇六年十一月）掲載。
 23 『浪裏生舟』巻二収録。漢川善書演目。『漢川善書案伝目録』（二
 〇〇六年十一月）掲載。
 24 不詳。『宣講摘要』巻一「鳳山遇母」、『宣講大全』「鳳山遇母」
 は異文。
 25 現行『宣講大全』に収録せず。
 26 不詳。『万選青錢』巻一「太乙指地」は異文。
 27 不詳。
 28 『万善婦一』巻二「双屈縁」を転載。後に『消劫大全』巻五に
 転載する。巻一「滴血成珠」注参照。漢川善書演目。
 29 陳戊国・喻清点校『三字経』、長沙：岳麓書社、一九八六年。
 吳蒙標点『三字経・百家姓・千字文』、上海：上海古籍出版社、
 一九八八年。
 30 『文昌帝君陰騭文暨文昌帝君戒淫宝録』、上海：蘇錫文、一九三
 九年。
 31 『文昌帝君陰騭文広義節録』、揚州：揚州藏経禅院、一八八一年。
 32 常安県は陝西省に属する。
 33 参考：阿部泰記「地方劇における張文貴故事の内容と特色」、
 山口大学文学会志四十八巻、一九九七年三月。
 34 平遠県は正しくは平遠州。
 35 叙州府は四川省に属する。
 36 「採取『増訂輯要』と注記する。『増訂輯要』については不詳。
 37 早稲田大学風陵文庫本は第十七葉を欠く。二千五百八十八字に
 はこの一葉の字数を加えている。
 38 民国年間、中湘九総黄三元堂刊。
 39 民国七年（一九一八年）刊。譚正璧『彈詞叙録』（一九八一年、

上海古籍出版社）参照。

- 40 曾白融主編『京劇劇目辞典』（一九八九年、中国戲劇出版社）参照。
- 41 龍国成口述。安徽省伝統劇目研究室編印『安徽省伝統劇目匯編』
 盧劇第八集（一九五八年、一三一～一七〇頁）。
- 42 一名『三下河南』。福建省文化局編印『福建戲曲伝統劇目索引』
 二輯（一九五八年）参照。
- 43 我眉県は正しくは峨眉県。
- 44 果山は山東省ではなく、四川省南充県に存在する。
- 45 撫州は江西省に属する。
- 46 不詳。
- 47 正寧州は正しくは正寧県。
- 48 桂溪県は正しくは貴溪県。
- 49 福寧州は正しくは福寧府。
- 50 臨都県は存在しない。臨邑県の誤か。

〔附記〕

本論文は昭和二十五年度人文学部研究プロジェクト「聖諭宣講の
 芸能化に関する調査研究」（代表 阿部泰記）の研究成果である。